

チームラボ

2022. 8. 23

夏休みに入る前に、息子からチームラボに行こうと誘われた。反応のしようがなかった。そのときは、チームラボに関する知識が皆無だった。とりあえず4人分のチケットを取ってもらった。なかなか取れないほどの盛況だという。場所がお台場だということだけは分かった。

日曜日の夜に何気なくテレビを見ていた。すると、猪子寿之という人物が登場した。アーティスト集団チームラボの代表だった。ああ、これかとなった。おかげでいい予習ができた。今話題であること、チームラボボードレスがお台場、チームラボプラネッツが豊洲、我が家が行くのはボードレスであることなどが分かった。ついでに、修学旅行でお台場に行った際に、チームラボボードレスの場所も確認できた。これもいい予習となった。

猪子寿之という人物に興味をもった。すでに、たくさんのメディアに出ている方だった。「朝まで生テレビ」「ニッポンのジレンマ」「情熱大陸」「アナザースカイ」「課外授業ようこそ先輩」「プロフェッショナル仕事の流儀」などに出ている。その道の一流の方である。

息子に案内されチームラボボードレスに行った。何だか想像もつかないような経験したことがないものに触れるときには、意外とワクワクしないものである。順路があるわけでもなく、よく分からないままに見てまわった。すごすぎて理解できなかった。一言でいえばデジタルの世界なのだろうか。なんでこんなことができるのかの連続だった。不思議な世界だった。デジタルの無限の可能性のようなものを感じた。

猪子寿之さんは、チームラボをしばしば漫画「ONE PIECE」の麦わらの一味に例え、スタッフ全員が生き残るために互いに無い部分を補うという意味で「チーム」と冠していると語っている。チームラボは、ウルトラテクノロジスト集団を自称し、プログラマ、エンジニア、数学者、建築家、絵師、ウェブデザイナー、グラフィックデザイナー、CGアニメーター、編集者など、デジタル社会の様々な分野の専門家から構成されている。だから、あのような魅力的な世界を創ることができるのであろう。

思いがけず、修学旅行とチームラボと二度ほど東京方面に行くこととなった。久しぶりだった。浅草、東京タワー、スカイツリー、お台場のフジテレビ、国会議事堂などの外観は、今までと変わらない。だが、その一方で日夜デジタルの世界は進んでおり、知らないことばかりである。やはり、たまには都会に出かけて刺激をもらわないといけない。

「ラボ」とはラボラトリーの略であり、研究所、研究室、実験室などの意味がある。F-Laboではないが、教育の世界にも、ラボが必要なのではないか。そうしないと、取り残されてしまう。世の中の変化についていけなくなる。チームラボボードレスを見ていて、そんなことを考えた。